

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

○学校経営で重要な学力に関して、単元テストの結果を見るに、昨年度と比して詳細には小幅な変化はあるものの、大きく向上することはなく横ばいの結果となっている。学力に関しては、地域性を鑑みて評価する必要があると思慮され、本校は地域の他校と比して良好な結果であり、各種の継続的な施策は効果があり、その結果が前述の状況に結びついていると推察される。

○心の教育（道徳心、社会性等）に関しては数値的に評価することは困難であるが、学校公開等を通じて児童の授業態度を見るに、立ち歩き等は見られず、全員が席に座り教師の言葉を聞いている状況である。児童の落ち着いた授業風景を見るに、堅実に道徳心・社会性等が成長していると思慮される。

○現在、本校での対応すべき具体的な課題として、“児童の能動的な行動力の育成”を掲げている。本課題に関しては、各種の施策を講じているところであるが、それら施策の中で、ある施策に大きな成果があった旨の報告があった。具体的には、「クラブ活動の発起人制度」である。本施策は、4年生から6年生を対象としたクラブ活動において、児童自らが実施したいクラブ活動の発起人となり、その他児童へプレゼンを行い、一定数以上の人数が集まればクラブ活動成立となる。活動内容も児童間で決定していくというものである。本施策導入後の3年経過時点の現在においては、教員が介在することなく、児童が能動的に発起・プレゼン・活動内容決定・活動までを一気通貫で実施できるようになったとの報告があった。“児童の能動的な行動力の育成”は、教員が直接指導することは難しいところと思慮されるが、「下級生は上級生の背中を見ながら成長する」ことを効果的に活用した施策であり、本校の独自文化として確立できたことは、大きな財産であると考えられる。

○児童を中心とした学校（教員）、保護者、地域（中学・保育園等を含む）の関係は良好と思慮される。本年度も、これらに大きなトラブルの発生はない。また、本校の教員は、学校行事以外のPTA・地域行事に対する積極的な参加姿勢が見受けられる。ご時世的に学校長の強制参加依頼などは無い状況ではあるが、例えば、地域行事である連合音楽会において、出演児童の担任の先生は、休日ながらも業務を超えて自主的に応援に来ている。これらにより、教員と児童の良好な関係が築いること、また教員の学校業務を含めた職場環境、及び保護者や地域との関係が良いバランスで成り立っていると思慮されるとともに、教員の児童ファーストな姿勢が伺える。今後も、このような本校の児童が健やかに成長できる環境を維持できればと考える。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

○本校の学校運営は、惰性的ではなく、一貫してPDCAサイクル（計画・実行、測定・評価、対策・改善）が徹底された学校運営であると思慮する。具体例を挙げると、コロナ禍を経た運動会の扱いは、各学校共通の課題と認識している。本校では、初夏に運動会を開催していたが、コロナ禍や猛暑を受けて児童の安全を考えると以前通りの運動会の開催は困難であり、昨年度は、運動発表会として表現目と徒競走のみとし、団体競技やリレーなどは見送り、児童にとっては少し物足りない経験となっていた。今年度は、これらの課題を踏まえ、初夏の体育発表会のほか、秋に学年体育授業公開として運動発表会で不足していた団体競技やリレーを行うこととなった。授業数の制約のある中、児童ファーストを最大限考慮し、固定化することなく学校運営を行っている。引き続き、現態勢を維持して学校運営をお願いしたい。